



こんにちは、岡田よしひでです

2021年4月11日 発行
県議会活動報告ニュース
NO.78

自宅 南州市浜改田 430-1
TEL/FAX 865-2932
携帯 090-4337-4527

岡田よしひで事務所 864-2426 南州市駅前町 2-5-11 県議会共産党控室 823-9524 高知市丸ノ内 1-2-20

県民の実態への共感こそ

県議会は3月22日に議案を採決して閉会。共産党県議団は、新型コロナウイルス対策が盛り込まれた2月補正予算案には賛成しましたが、浜田知事の国直結の政治姿勢や予算案の内容など総合的に判断して新年度予算案には反対しました。与党は賛成討論に立たず、県民への説明なしに可決しました。

塚地さち議員の反対討論の要旨。

日本共産党は、当初予算に対して予算の具体的中身と同時に予算に反映されていない県民の願い、知事の政治姿勢による方向性など総合的な評価に基づき判断してきました。2020年は新型コロナウイルス感染症パンデミックで、ケア労働の重要さ、海外依存でない生産の大切さなど社会のあり方が問い直されました。また、気候危機に対するパ



瓜尻遺跡の発掘現場を視察 (安芸市=4月7日)

リ協定スタートの年であり、従来型の生活や経済、土地利用と食料生産のあり方の変革が迫られています。この10年が決定的に重要で「未来への分岐点」と指摘されており、これらに政治がどう向き合うかが今回の判断の大前提です。菅首相はパンデミック、気候危機にまともに向き合わず、目の前の利益優先、格差と貧困を拡大した新自由主義路線を見直すことなく、個人情報保護も不十分なまま「デジタル化」を強行し惨事便乗型で加速させようとしています。

国直結姿勢が強まる

その下で編成された2021年度県一般会計予算案は、私たちが県民とともに求めてきた少人数数級、第44連隊跡地購入、事業規模別減収補てんなどの前進面はありますが、浜田県政誕生以来1年余の議会論戦を通じて国直結の県政に変質しつつあると判断し、その流れと対峙して県民の命と暮らしを守る取り組みを強めていく決意を新たにしています。

反対理由の第一は、新型コロナウイルス感染症対策です。県の検査の取り組みは当初は先進性があつたものの、多くの自治体が積極的に検査に踏み出す中、社会的検査を頑なに拒んでいます。

第二は医療介護問題。「日本一の健康長寿県構想」では、県民

の「意識醸成・行動変容」が柱のトップに据えられ、「地域で支えあう」の文言が入るなど自助・共助を強調するものに転換しています。コロナ危機を経ても公立病院の再編統合、今後5年間で急性期病床を約2000床削減する地域医療構想路線を継続させ、「病院のダウンサイジング」を明記して予算化しています。第三は経済対策。ギャンブル依存症を生み出すカジノを含むIRに期待を表明し、関西圏の活力を取り込む体制・予算を拡大している点は看過できません。第四はデジタル化の無批判な推進。自治体の独自性を奪う懸念に答えません。第五に、従来から県政の最大の問題としてきた学力テスト偏重の教育行政。教壇に立たない教員が全国比で異常に多いのも一向に改まっています。この間の県政は県民の実態から出発していません。国に共感するばかりの浜田県政では、コロナ危機を乗り越え県政を前進させることはできません。安心安全な県土づくりに取り組むことを強く求めます。

おむすび通信 (78)

党県議団は7日、保存を求める声が高まっている安芸市僧津の瓜尻遺跡を視察。7世紀ごろの安芸平野では最大規模の遺跡で役所、井戸、船着き場とみられる遺構を発見。